

第40回日本生物学的精神医学会・第61回日本神経化学会大会 合同年会

Impairment of Beat Processing Ability Relates to Language
Disturbance in Patients with Schizophrenia

慶應義塾大学環境情報学部2年
松下 佳鈴

1. 活動日程・会場

日程：2018年9月6日～9月8日

会場：神戸国際会議場

2. 活動目的

本活動の目的は、兵庫県神戸市で開催された「第40回日本生物学的精神医学会・第61回日本神経化学会大会 合同年会」のポスターセッションでの発表であった。本学会は、精神障害の理解、診断・治療に活かすことを目指し、精神症状と脳や身体の構造と機能の関係を探索している団体であり、今回は日本精神化学会大会との合同年会である。また、同時期にWorld Federation of Societies of Biological Psychiatry（アジア太平洋生物学的精神医学会国際会議）開催され、3つの学会が連携した企画などもあった。

3. 発表内容

本学会では、統合失調症患者における音楽リズム処理能力と言語障害の関連性についての研究の発表を行った。

言語障害は、統合失調症の症状の一つである。統合失調症患者と健常者の音楽能力と認知能力を調べた研究では、患者群における音楽知覚能力の優位な低下を呈することも報告されている(Hatada et al., *J Psychiatry Neurosci*, 2014)。また、健常者においては、リズムに合わせて身体を動かすことに関する神経回路と発話や韻律に携わる神経回路に関連性があることも示唆されている(Woodruff Carr et al., *PNAS*, 2014)。しかし、統合失調症患者におけるそれらの関係性は明らかになっていない。そこで、ハーバードビート評価テストを使い、リズム能力に特化して言語障害との関連性を調べ、本学会では、中間解析の結果を発表した。

結果としては、統合失調症患者において、リズム処理能力と言語能力の間に相関関係が見られた。興味深い点としては、リズム生成能力と言語生成能力、リズム知覚能力と言語認知能力のそれぞれの間に相関関係が認められたことが挙げられる。

したがって、音楽拍子処理に関係する神経基盤は、統合失調症の病態生理と共通しているのではないかと考えられる。

4. 活動の成果

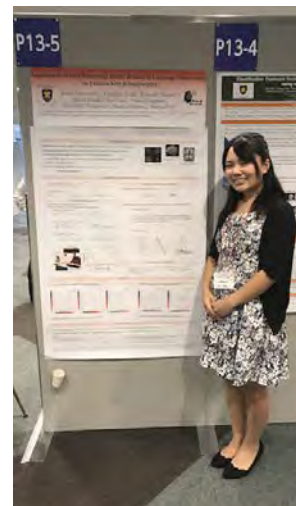
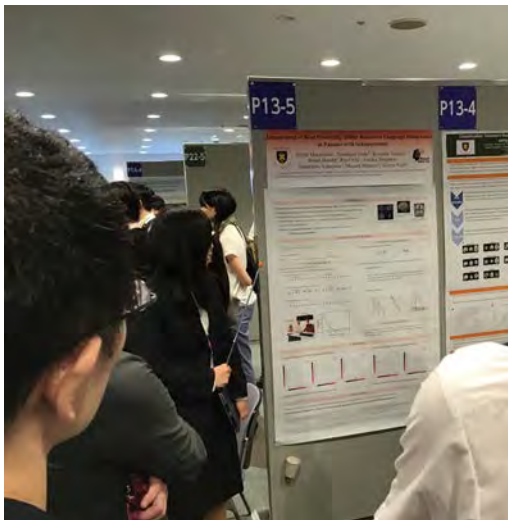
「Impairment of Beat Processing Ability Relates to Language Disturbance in Patients with Schizophrenia」という題でポスター発表を行った。たくさんの方に聞いていただき、ディスカッションを行うことができた。質疑応答では、実際にH-BATを経験されたことがある方から難しかったという経験談を聞いたり、健常者における類似研究はあるのかなど、多くの質問や情報交換をすることができ、とても有意義であった。

5. 今後の展望

今後の展望としては、さらに被験者数を増やし、また脳波や脳画像と組み合わせることによって本研究を発展させていきたいと考えている。

6. 謝辞

今回、学会参加に際してご指導いただきました先生方、経済的に補助していただいた湘南藤沢学会に厚く感謝を申し上げます。



ポスターセッションの様子